わたしの聖戦（ジ・ハード）

女性が働くということ ―― 145

医学ジャーナリスト・医学博士　植田美津恵

ジョン・スノウと語る

ある病気が流行ったときに、その原因や流行の経路などを調べる学問を「疫学」という。

その疫学の父と呼ばれている人がイギリスの医者、ジョン・スノウである。彼は、1848年、ロンドンでコレラが大流行した際に、その感染経路を突き止め、結果的にコレラ患者とコレラによる死亡者を激減させたことで知られる。

ただし、当時コレラの原因であるコレラ菌は発見されておらず、コレラは空気感染すると信じられていた時代である。では、いったいジョンは何をしてのけたのか？

ジョンは、発生した患者の症状が下痢や嘔吐であったことから、これは消化器系の病気ではないかと考えた。さらに、消化器の症状が出るということは、口から入る「何か」が原因ではないか、と仮説を立てたのだ。

その仮説に基づき、ジョンは病気で死亡した患者がどこに住んでいたかをロンドンの地図上に示した。当時の死亡者数はおよそ600人以上。なんとも膨大な数である。この地図はコレラマップと呼ばれ、今やネット上でも見ることができる。コレラマップを作成すると、あることに気づく。それは、病気になった人々が住んでいたのは、特定の井戸のポンプがあるところに集中しているということだ。ということは、この井戸から供給される水が病気の原因ではないか、その水に病気を引き起こす「何か」が潜んでいるのではないか、という考えに至った。

今思えば何でもないことかもしれないが、病気の原因は「悪い気」によるものと信じられていた時代である。日常口にする水に病気の原因が混入していると考える人は誰もおらず、ジョンの考えを支持する人もまたほとんど皆無であった。

次にジョンは、その井戸のポンプを閉鎖することを当局に提案する。当時ジョンの主張はまったく受け容れられなかったが、根気よく説得を続けた結果ついにポンプは止められた。疑わしい水が人々の口に入らないようにした途端、瞬く間にコレラ患者は激減し、流行は収束を迎えるのである。

原因が不明（コレラ菌の発見はこのときから30年も経てのことである）にもかかわらず、結果的に患者をゼロにした功績は大きく、だからこそ疫学の父と呼ばれ継がれてきたのだろう。

私は昨年の5月に、このポンプのあったストリートを訪れてみた。レプリカではあるが当時のポンプが残っていると知り、それをこの目で見てみたかったのだ。ようやく探し当てたそれは少し傾いてはいたが、実際に見て触れることができたことに感動した。角には、「ジョン・スノウ」の名を冠したパブがある。パブの壁には本物のコレラマップやジョン・スノウの肖像画も飾られており、ビールを傾けながらしばし感慨に浸ったものだ。

感染症が過去の病気という間違った認識が広まるとともに、ジョン・スノウの存在も功績も語られることが少なくなったし、ロンドンでもその名を知る人はまずいなかった。

このような偉大な人物でもそうなのだから、凡人である私自身の人生はもちろんのこと、私の喜びや哀しみ、不安や辛さなどは時代の襞に埋もれ、そのうちすっかり忘れ去られてしまうのだろう。そう考えると、寂しくもある一方で、気張った気持ちもほぐれてくるように思えて心なごむ。額の中のジョンは、そんな私をただ静かに見つめてくれていた。

イラスト・伊藤栄章